平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	６７	都道府県・指定都市名	熊本市
学校名 （生徒数）	くまもとしりついずみみなみちゅうがっこう 熊 本 市 立 出 水 南 中 学 校（４９７人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒862-0941　熊本市中央区出水 7 丁目 86 番 1 号
電話番号：096-378-6429　FAX　096-378-6910
研究内容等を掲載しているホームページの URL：
http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/j/izumiminami/index.htm

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：道徳教育
○研究のキーワード：教育活動全体　自他を大切に　思いやり　出南タイム　学び合い
○研究成果のポイント：
次の(1)～(3)の授業実践を行うことで，ア～ウの目標達成を目指す。
(1)生徒一人一人が自信をもって活躍できる場を確保するために，「出南タイム」（協同的学習）を中心に据えた授業を実践する。
(2)各教科等の授業において，育てたい道徳の内容項目を明確にした授業を実践する。
(3)生徒の心に響く教材を準備し，教科での学びを補充・深化・統合できるように工夫した道徳の時間の授業を実践する。
ア 上記(1)と(2)より，「出南タイム」（協同的学習）の中での対話，学び合いを通し，生徒一人一人の自尊感情を高める。
イ 上記(1)と(2)より，「出南タイム」（協同的学習）での生徒同士の対話，学び合いを通し，互いのよさや可能性を認め，相手を思いやり，互いを高め合う仲間づくりを目指す。
ウ 上記(2)と(3)より，各教科等と道徳の時間での実践を通し，教科での学びが生徒の道徳性の向上に繋がるような道徳教育を目指す。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

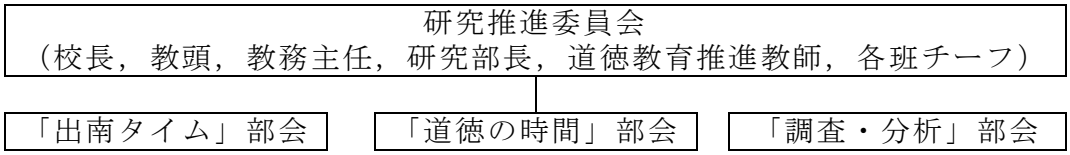
教育活動全体を通じて行う自他を大切にし思いやりの心をもつ生徒の育成
～各教科の授業に「出南タイム」（協同的学習）を位置づけて～

（２）研究主題設定の理由

本校の生徒は，個々の能力はありながらも，それを積極的に生かすことができない。その結果として，人と関わる力が弱く，自尊感情が低いという実態がある。

そのため，自分に自信をもって活動できる生徒に育ち，積極的にコミュニケーションを図り，主体的に活動し協力することのできる，活力ある集団になって欲しいという教師・保護者・地域の願いがある。以上の実態と願いを踏まえ，本研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25	４月　研究テーマ，組織作り 実態調査「こころのアンケート」①→重点項目の設定 ５月　道徳のモデル授業（１年）（講師　澤田浩一教科調査官） 道徳教育全体計画の再点検，別葉の見直し・検討① ６月　実態調査「こころのアンケート」②　ＱＵテスト 「出南タイム」（協同的学習）「出南タイムキャラクター」の設定

年度	７月	「出南タイム」（協同的学習）研修①　１学期の反省と２学期の目標
	８月	「出南タイム」（協同的学習）研修②　別葉の見直し・検討②
		「本時の流れ」（ホワイトボード），提示用カードを全職員に配布
	９月	道徳教育研修（講師　愛知教育大学　鈴木健二教授）
		QUテスト分析（講師　九州産業大学　長須正明教授）
		研究部アンケート①（教師用・生徒用）
平成25年度	10月	全職員による「出南タイム」（協同的学習）を設定した学習指導案の作成
		道徳の時間「出前授業」の実施　全担任による道徳の時間公開授業
		全校生徒による「出南タイム」（協同的学習）集会
		全校「出南タイム」（協同的学習）開始（放送にて）
	11月	全職員による「出南タイム」（協同的学習）を設定した教科公開授業の実施
		道徳の時間公開授業（１年）（講師　平山眞理子指導主事）
		道徳の時間公開授業（３年）（講師　福田衣都子指導主事）
	12月	実態調査「こころのアンケート」③，研究部アンケート②（教師用・生徒用）
		２学期の反省と３学期の目標

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①「出南タイム」（協同的学習）の設定・実施

ア　道徳の時間を要とし，各教科の授業に「出南タイム」（協同的学習）を設定し，思いやりに支えられた協力的な雰囲気の中での学び合いを設定し，実施した。

イ　「出南タイム」（協同的学習）集会，放送による全校「出南タイム」を実施し（週１回），全職員，全校生徒の意思疎通を図った。

②道徳の時間の工夫

ウ　道徳の時間「出前授業」を行い，同学年の他クラスで道徳の授業を行った。

エ　道徳の時間に用いる副読本の読みもの資料の発問等をデジタル化し，それを同学年で共有化して用いた。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①「出南タイム」を授業の中に取り入れることで，自分の意見をもち，発表することができるようになった。

②「出南タイム」を授業の中に取り入れることによって，お互いの意見に反応したり共感したりすることができるようになり，クラスに和やかな雰囲気が生まれ，男女ともにコミュニケーション能力が高まった。

③「出南タイム」で，お互いの意見に興味・関心を持って質問をすることによって話を繋ぎ，意見を広げることができるようになった。また，グループの意見を一つに絞り込むことにより，意見を深めることができるようになった。

④道徳の「出前授業」は生徒に好評で，「いろいろな先生方の道徳の授業を受けて，先生方の様々な考え方に触れて楽しかった」という感想が多数寄せられた。

⑤道徳の時間の発問や資料等をデジタル化することで,すぐに使用できるようになった。

●「出南タイム」の質的向上をはかるために，「出南タイム」の課題の有用性，「出南タイム」のタイミングと形態，「出南タイム」のねらいの明確化の研究を深める。

●各教科等の授業において，「出南タイム」は取り入れたが，育てたい道徳の内容項目を明確にした授業の実践が少なかった。今後は意識して実践する。

●副読本の全ての読みもの資料の発問等のデジタル化を図りたい。

（２）研究成果の意義等

「出南タイム」を授業に取り入れることにより，自分の意見や他の人の意見を大切にするようになり，みんなで学び合っていく姿勢が身に付くと思われる。これは研究テーマにもある「自他を大切にし思いやりの心」をもった生徒の姿と考えている。

また，道徳の時間の「出南タイム」における生徒同士の心の交流は，学級の人間関係をより一層確かなものにしていくと期待できる。

（３）指定期間終了後の取組

「出南タイム」を授業だけでなく，あらゆる場面で，生徒自らが用いることができるようなものに高めていきたい。また，生徒の心に響く道徳の時間を工夫しながら，温かい人間関係の中で，自他を大切にし思いやりの心をもつ生徒の育成を図りたい。来年度は熊本市の研究委嘱校として，１０月に研究発表会を行う。